

れんことを、祈るしかない」

千歌（M）「その願いは、届かなかつた。日が暮れても、雨風あめかぜは強まるばかり」

S E 襖が開く

小太郎「旦那様、備前様の使いで参りました。

小信川の堤が、今にも切れそうだと」

伝右衛門「なんと！」

小太郎「みなで土俵を積んでおりますが、手が足りませぬ。木曾川がまるで大蛇のように、闇の中をはい回っております」

伝右衛門「ならば、わしも参るとしよう。足腰立つ者は、みな総出じゃ」

千歌「お父様、ちかも参ります」

伝右衛門「たわけかッ。女の出る幕ではない」

千歌「なれどそこには、そこには与三さんが
：：：：」

S E 襖が開く

福助「庄屋様、ただいま助け人足を百人、引き連れてまいりました」

伝右衛門「福助さんか、よいところに：：：：」